

姫路女学院高等学校

普通科教養コース1年

かわしま このみ

川島 好愛

きのした まい

木下 真衣

まえかわ ななみ

前川 七海

SDGs14

海洋汚染について



背景・目的

ニュース等でも最近よく見るようになった海洋汚染についてSDGsの観点から考えてみた。

- 最近発生した座礁事故をきっかけに海洋汚染について知りたいと思った。
- プラスチックごみを海に捨てることの影響について気になっていた。
- 生活に深く関わっている海のことを知りたいと思った。
- 水をきれいにするには多くの時間と労力が必要なことを知るためにろ過実験を行った。





• モーリシャス沖座礁事故

2020年7月25日午後7時すぎ(現地時間)
貨物船(WAKASIO)が島の沖合で座礁し
大量の重油が流出

島南東部10キロの海岸線と周辺が汚染
海洋生物の死亡、マングローブ、サンゴ礁にも影響



• 魚の胃から発見されたごみ

駿河湾深海1000メートルほどに生息する雑食性
の「ミズウオ」がゴミを誤食してしまっていた。

海洋汚染は人間によって起こされたもの。
私たちは海の危機について正しく認識しなければならない。
人間が汚した水を再び人間の手で綺麗にできないか考えました。
そこで私たちはできる範囲で実験を行いました。

水のろ過実験

- 材料
1リットルのペットボトル、軽石、砂、コーヒーフィルター、綿、ガーゼ、水
- 手順
ろ過装置を組み立てる→ろ過装置に泥水を注ぐ
→タイマーをスタート→撮影→実験終了

泥水のろ過実験

実験結果

- 約2時間かけたが少量しか、ろ過できなかった。
- 完全にろ過することができず、半透明な水ができた。

考察

- 一度汚れた水をきれいにするには難しいことが分かった。
- 海の水をすべてろ過するためには莫大な時間がかかることが分かった。

【まとめ】 1. 海洋汚染について

- 汚染水をきれいにするには多くの時間と労力が必要。家庭内では、工夫次第で可能かもしれない。

2. プラスチックごみについて

- 私たちの軽率な行動が海の生物たちを苦しめていた。
- プラスチックごみは分解されない。私たちもプラスチックを食べているかもしれない。

【最後に】

- ・ 今回、海洋汚染を調べていくなかで、姫路市飾磨出身の詩人である有本芳水という方を知りました。飾磨に詩碑があり、そこには

「播磨はわれの父の国 播磨はわれの母の国
飾磨の海にともる灯 その色見れば泪ながるる」

とあります。

有本さんが見た美しい播磨の海を私たちは守っていく義務があります。

ささやかな事でいいじゃないですか。水を守るための行動を起こしていきましょう。